

9月26日（月）朝礼講話

久しぶりの朝礼です。

今日はどうしても皆さんに伝えたいことがあり、朝礼ができることをうれしく思います。少し話を聞いてください。

学校祭前後の不安定な天気もそうでしたが、今年も多くの台風が日本に接近、上陸しました。そして中には大きな被害をもたらしたものもあります。

8月30日、初めて東北地方に上陸した台風10号。氾濫した川の水で岩手県の介護老人施設の入所者9名が亡くなったニュースを見た人も多いと思います。この台風で、死者22名、行方不明者5名、負傷者11名という方が犠牲になりました。

台風だけではありません。4月14日には熊本でマグニチュード7を超える地震があり、

死者88名、行方不明者0、負傷者2173名の方が犠牲になりました。

こうした自然災害の前では、自然の驚異、その前に立った時の人間の無力さを痛感せざるを得ません。

そして今から57年前の今日、ここ弥富の人たちも同じように自然の驚異の前に大きな絶望感を味わいました。

そう、伊勢湾台風です。

この写真は、国道1号線や弥富駅を名古屋方面に向かって撮ったものです。この線が国道1号線です。桜小学校や海南病院がここに見えます。国道や線路、そしてあたり一面が水没しています。

この日の出小学校の場所に立っていた、当時の弥富中です。

これは今の弥富中の立っているあたりの写真です。南から北を向いて撮られています。ここに流れている川が筏川で、右側が十四山地区です。

弥富中が立っているのはおそらくこのあたりでしょう。

被害を、先ほどの自然災害と比べてみましょう。

どうですか。伊勢湾台風がいかにかこの地域に大きな被害をもたらしたか、分かるでしょう。当時の弥富町だけで322名の方が亡くなりました。

あれから57年。気象予報の精度が増し、技術の進歩や防災意識が高まり、同じ規模の台風が来ても、おそらくこれほどの被害はないと思います。しかし、自然は、必ず私たちの予測を越える試練を与えます。その時のために、私たちは決してこの日を忘れてはならないと思います。